

# 令和5年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

学校名(熊本県立八代工業高等学校)

## 1. 取組についての評価

「新たな学びを生み出す力の育成」を目指して取り組んできた三つのカリキュラム・マネジメントを、良きモデルとして特に評価したい。

### ①7月と11月の年2回の企業実習

共通教科の授業や学校行事との調整などご苦労が多かったと思われるが、7月での反省や教訓を生かして11月に再挑戦する経験は、技術力の向上だけでなく向上心を育む機会になっている。

### ②マイスターの日の設定

毎週水曜日に産業実務家教員の指導日が設定されることにより、派遣する企業としては現場調整がしやすくなり、学校や生徒の側でも事前・事後を含めた計画が立てやすいのではないかと推察する。

### ③CEOや産業実務家教員と先生方で作成した科毎の教科指導内容(総合シラバス)は素晴らしい

総合シラバスを作成することにより、先端技術習得と既存授業内容の関係や、基礎知識・技術と先端技術を繋ぐ学びの順序性、さらに実習と座学の融合等の検討が可能になると推察する。

## 2. 今後の課題と考えられること

### ①興味関心主体の課題研究でなく、将来の職や技術開発に直結したDX活用を中心に据えている点が素晴らしい。

今後は新技術やIoT等活用の到達レベルの設定や、活用だけでなく開発にも興味を持つ人材育成なども心掛けて頂きたい。

②30年後を予測(空想)したときに、今ここで生徒達に学ばせておくべきことは何なのか？それは学校だけでできるのか？是非とも議論していただきたい。出来ないとしたら、その穴を埋めるパーツ(知識・技術・情報)を探し、組み込む仕掛けが必要になってくるのではないだろうか。

是非、将来のマイスター育成のために専門高校をリカレント教育の拠点に活用したり、教員へのDX技術のOJT(リスキリング)ができるシステムを作っていただきたい。

③生徒の発表や感想を見ると、今回のマイスター・ハイスクール事業を通して、知識・技術の習得に加えて協調性や自己管理能力が育まれ、培われた誇りが向上心に結び付いていると感じています。

これら成果が次年度からの「熊本版マイスター・ハイスクール事業」に反映され、向上心を持ち続けられる人材育成のエコシステムとなるよう期待致します。